

アマモ場造成の取組を支援

始良・伊佐地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

鹿児島湾の藻場は、岩礁や消波ブロック等にヤツマタモク、マメタワラ、ヒジキ等を優占種としたガラモ場と砂泥質の浅瀬にはアマモやコアマモを中心としたアマモ場がある。

県水産技術開発センター報告によると鹿児島湾奥におけるアマモ場は顕著な消失傾向にあり（昭和54年：約100ha→平成18年：約10ha）、その原因は、埋め立て、砂の堆積、台風の影響等によるものとされている。

管内2市（霧島市・始良市）では、平成22年度から「環境・生態系保全活動支援事業」により、失われたアマモ場の回復を目的としたアマモ場造成の取り組みを開始したので、その技術面やモニタリング等の支援を行った。

【普及の内容・特徴】

アマモ場造成の技術として確立されつつある、①栄養株移植（粘土結着法、竹串法、芝植え法、ポット法、自然繁殖工法）、②播種（コロイダルシリカ法、播種マット法、ゾステラマット法）、③苗移植、等のうち、当管内においては、播種（播種マット法）と栄養株移植（ポット法）によりアマモ場造成を試みた。

(1) 播種（播種マット法）

① アマモの種子の採取と保存

管内で最も安定した大規模なアマモ場がある福山港内において種子を採取し、選別後、冷蔵保存した。

② アマモシートの作成・敷設

播種マット法の中で、軽量で作業性が良いアマモシートを関連企業の協力を得て作成した。縦4m、横2mのシートを以下のとおり設置した。

地区協議会名	設置地区	平成22年度	平成23年度
きりしま藻場・干潟 守り隊（霧島市）	隼人・国分	3枚（3ヶ所）	6枚（5ヶ所）
	福山	3枚（1ヶ所）	6枚（1ヶ所）
あいら藻場・干潟 再生協議会（始良市）	始良	6枚（1ヶ所）	9枚（1ヶ所）
	加治木	なし	1枚（1ヶ所）

③ 発芽・生育の確認調査

潜水土による潜水調査及び船上から箱めがね等を使用し、状況確認を行った。

(2) 栄養株移植（ポット法）

① アマモの苗の採取

管内で安定したアマモ場がある永浜漁港周辺において苗を採取した。

② アマモポットの作成・敷設

ポット30個を作成し、3ヶ所に10個ずつ設置した。

③ 発芽・生育の確認調査

船上から箱めがね等を使用し、状況確認を行った。

【成果・活用】

(1) 播種（播種マット法）

アマモシートによる播種において、発芽・生育を確認できた。場所により潮流・光量・栄養塩等の環境要因の違いから、発芽量・生育にばらつきが見られたが、概ね良好な結果が得られた。シート上に繁茂したアマモから種子が落ち、翌年シート周辺からの発芽を確認できた場所もあるが、短期間でのアマモ場造成は難しく、継続的な種子の補給が必要と考えられる。今後は、生育の良かった場所に重点的にシートを設置するなど、アマモ場の回復を目指していく。

(2) 栄養株移植（ポット法）

ポット法による移植において、生育を確認できた。しかし、苗を採取した永浜漁港周辺のアマモの生長と比較すると生育が悪い状況であった。



写真1：アマモシートの作成（10月）



写真2：アマモシートの運搬（10月）

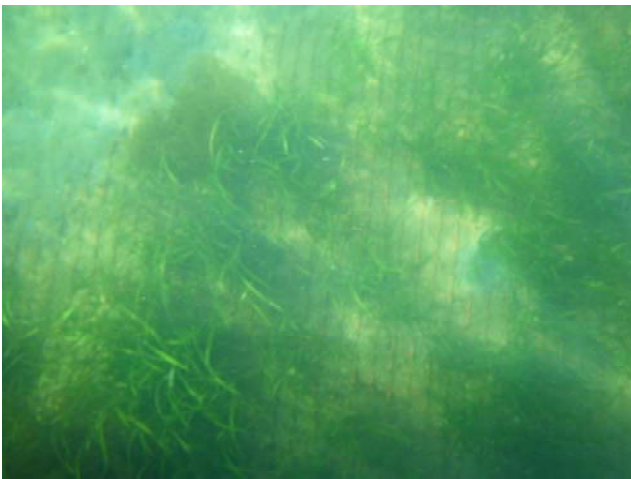


写真3：アマモシート生育状況（2月）



写真4：アマモ生育状況（5月）



写真5：アマモポット苗の作成（12月）



写真6：ポット苗の生育状況（3月）